

見つめる目 しなやかな心 医療を支える 看護の手	<b>看護部だより</b>	2014 年 5 月号 第 277 号	特定医療法人衆済会 増子記念病院 看護部 部長 上村 志磨子 (認定看護管理者)
--------------------------------	---------------	---------------------------	--

病院機能評価受審・新 1 号館完成間近・ライフワークバランス…

## 「平成 26 年度課題」の達成に全力を！

看護部長 上村 志磨子

皆さんは、総合案内カウンター等の院内に飾られていた季節感あふれる生け花が、最近なくなったことに気付いていますか？院内感染対策上問題との指摘があり、20 数年続けてきた生け花(池坊)は本年 3 月をもって廃部となりました。

多くの患者さん、職員がその花に足をとめ、心が癒されたのではないのでしょうか。毎週楽しみにされていて、写真を撮られる患者さんもみえました。私も部長室に飾っていた生花に随分と癒されました。

色彩やつぼみから満開に、そして香り、日ごとに変化をみせる生花が大変楽しみでした。今は、お花の大好きな職員の〇〇さんにいただいたプリザーブドフラワーを飾っています。そしてこの 4 月から華道部は、プリザーブドフラワーを始めました。

4 月は、母の日アレンジの赤いカーネーションとバラとヘデラのグリーンを使ったとても可愛いプリザーブドフラワーが出来上がりました。部員は、花の大好きな有志 4 人です。興味ある人は、一度見に来てください。毎月第 3 月曜日に活動しています。そして、是非あなたも体験してみませんか。楽しいですよ。

### 1 新入職員の皆さんへ

さて、平成 26 年度がスタートして 1 か月が経過しました。新入職員の皆さんは、この 1 か月はあっという間でしたよね。白衣や職場の雰囲気にも慣れ、少しずつ自分らしさが出せている頃ではないでしょうか？それともまだまだ馴染めず、分からないことばかりで不安と焦りと緊張の毎日でしょうか？大丈夫ですよ。あなたの隣にいる指導する側の先輩看護師も、今のあなたと同じ経験をして今の看護師の姿があるのですから。

まずは、元気に出勤してきてください。5 月のマナー目標である「相手の顔を見て あいさつしましょう」にプラスして笑顔で元気よく「おはようございます」と声を出してみてください。きっとその日一日、元気に頑張れると思います。このことは、新入職員の皆さんだけに言えることではなく、職員全員に言えることであり、私はそのように心がけています。

### 2 自分を褒めて

焦らず一日一日を大切に、出来ることを

1つずつ増やしていきましょう。分からないことはそのままにしないで理解するまでしっかり学び、専門職業人としての必要な知識、技術、態度を確実に身につけていってください。また、毎日の振り返りの中で反省することばかりではなく、同じ数だけ自分を褒めることも忘れないようにしてくださいね。

### 3 第39回全体会議

去る4月6日に、第39回全体会議が開催されました。「今、成すべきこと！！～魅力ある増子記念病院を目指して～」というメインテーマで病院の基本方針、当院が求めるもの、事業計画及び予算が明確に打ち出されました。また、どのような医療実践をしていくのか各部門からの業務計画も出されましたね。この全体会議を受けて、私たち職員一人一人は、魅力ある増子記念病院を目指すため、「今、何をすべきか、何をするのか」理解できたのではないのでしょうか。

### 4 新1号館完成間近

新1号館は、完成間近であり、新病院としての稼働をスタートします。外来部門は、1階、2階の2フロアとなり、6月中旬より運用を開始します。病棟においては、3病棟から2病棟に向けた移行期の間、引っ越しを繰り返し3病棟での病床管理とチーム編成をしながら11月中旬の完全2病棟運用を目指します。

1病棟51床の看護体制は2単位となります。この5月に病棟看護職員に対し、アンケート調査を実施して、結果を参考にチーム編成を考えます。合わせて看護管理体制と夜勤交代制勤務についても見直す予定です。

### 5 盛り沢山の課題

また平成26年度は、看護職員の職務満足度等に関する実態把握の目的で日本看護協会主催の看護職の「WLBインデックス調査」(ワーク&ライフバランス)への参加を計画しています。6月に実施予定ですので、ご協力をお願いします。

さらに、10月には病院機能評価を受審します。この受審を契機に、組織としての医療文化を再構築するという病院としての事業目標があります。目標達成に向け、一人一人が意識して取り組んでいかなければなりません。

以上のように平成26年度は、盛りだくさんです。しっかり準備を進め、取り組んでいきますが、皆様のご理解とご協力をお願い致します。以上

#### <平成26年度に向けて>

平成26年度看護部行動理念  
築こう新たな職場環境！高めよう  
みんなの力とチームワーク！

#### <平成26年度方針・目標>

1. 新病院の稼働にあたり、理念に沿った医療、看護の提供
  - ①外来部門
  - ②病棟・手術室部門
  - ③透析部門
  - ④訪問看護ステーション(在宅部門)
2. 診療報酬改定に伴う病院方針に対し、柔軟に対応する。
3. 病院機能評価受審に向け滞りなく準備を進め認定を目指す。
4. 夜勤交代制勤務の見直しと各部署適正人員の見直しをする。
5. 継続目標
  - ①看護職の定着促進
  - ②マネジメント能力の向上
  - ③接遇の強化
  - ④医療安全対策の強化

## 学生コーナー

<入社して…3>

### 看護師になるために

3階病棟 看護学生 小鉢香織

私が看護師を目指そうと思ったきっかけは祖父の入院でした。将来の夢も何も考えていなかった時に、患者さんに優しく声を掛け、患者さんだけでなくその家族まで笑顔で接している看護師さんの姿をみました。それがとても印象的であり、私は看護師を目指そうと決意しました。

地方から名古屋へ赴任して、もうすぐ2ヶ月が経とうとしています。高校を卒業し、すぐに初めての場所、慣れない環境で働き始めることにとっても不安を感じていました。実際、3階病棟で勤務となり、初めての事や慣れない環境の中で、沢山の業務を少しでも早く覚えようと毎日必死でした。しかし、学生の先輩や看護師さんの助けもあり、少しずつですが業務も覚え、できる仕事が増えてきた今は、少しずつですが、やりがいを感じています。

また、最近は、患者さんからも声を掛けて頂くことが増えてきました。しかし、まだ専門的な知識もなく、何と答えていいのかわからず戸惑う事が沢山あります。その中でも、「ありがとう」や「頑張ってるね」という言葉を掛けて頂き、私の方が元気をもらうことが沢山あります。専門的な知識や技術はまだ無い分、私にできる事は患者さんやその家族の方に元気や安心感を与える事だと思

います。常に笑顔を忘れずに頑張っていきたいです。

看護学校へ入学し、専門分野の勉強が沢山あります。仕事と勉強の両立がとても大変で辛いと思う時もあります。しかし、自分が目指す看護師さんに少しでも近づけるよう、これからも全力で取り組んでいきたいです。

この2ヶ月で沢山の事を学びました。正直、辛くて泣いたりする時もありましたが、先輩や看護師さんに優しく声を掛けて頂きとても嬉しく感じ、来年は私も先輩方のようにになれるよう努力していきたいと思いました。

ここまで先輩や看護師さん、両親や同期の支えもあり、頑張ってきたので、周りの方々への感謝の気持ちや、また初心を忘れずに4年間頑張っていきます。沢山ご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯頑張りますのでご指導よろしくお願ひします。

以上

<入社して…4>

### 看護師になる!

2階病棟 看護学生 佐藤賢醇

私が看護師になると決めた動機は、母との会話です。私の母は昔から持病があり、幼い頃から「将来は医療系の職に就きたい」と考えていました。高校の進路決定の頃、母から男性看護師の話を良く聞くようになりまし。母の話を聞く度に、私も「母を支えて下さった男性看護師のようになりたい」と思うようになりまし。

私が看護師になるため、地元長崎から名古屋

屋に赴任して約1ヶ月半が経とうとしています。高校を卒業し、身内も誰もいない環境で「頑張る」という気持ちだけで名古屋に来ました。

最初は、とても緊張をしており、疲労の蓄積が激しかったことを覚えています。看護学生の先輩方や看護師さんにも心配されていましたが、少しだけですが、仕事ができるようになってきました。

私は、2階病棟に勤務をしており、先輩方は覚えの悪い私に対して、わかりやすく何度も教えて下さり、「わからないことはない?」と優しく気遣って下さいました。そして、看護師さんも自分が何も出来ていないのにも関わらず、優しい言葉を掛けて下さいました。そんな先輩方や看護師さんのおかげで、何の知識もない私も少しは成長できたのではないかと思います。

これから、もっと成長できるように、患者さんに対する接し方や仕事を覚えていきたいです。そして、看護学校の勉強も頑張り、来年赴任してくる、今の私のような不安でいっぱいの後輩に対して、優しく丁寧に教えてあげられるように成長していきたいです。

この1ヶ月半の間、看護という職業は休む暇がなくとても忙しい仕事だと感じました。しかし、患者さんと接する中で、患者さんの笑顔を見て「ありがとう」と言われる度に、頑張れました。看護という職業は高校生の時よりも、「いいな」と思うようになりました。

もちろん、患者さんの気持ちを考えたり、苦しいこともあったりと、難しい職業ですが、とてもやりがいのある仕事だと実感し、より一層看護師になりたいと思う気持ちが高まりました。

4月からは、看護学校に通い始め、今までよりも厳しく、勉強と仕事の両立はとても難しいことであり、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、看護学生という立場で一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。

以上

<入社して…5>

## 憧れの看護師

外来 看護学生 三池佳奈子

私が看護師になりたいと思ったのは、交通事故で入院したのがきっかけでした。入院生活は思っていた以上に辛いことが沢山あって、体の痛みで辛いのはもちろん、いつ治るのかという不安や、トイレや入浴を手伝ってもらい申し訳なさなどで、精神的にも辛いことが沢山ありました。

そんな時、看護師さんの明るさや励まし、気配りにとても助けられて、私もこんな看護師になって、同じように辛い思いをしている人の手助けをしたいと思い、看護師になりたいと思いました。

増子記念病院に入社し、初めてナース服を着たときは、看護師に一步近づけたようで、とても嬉しくて、これから頑張ろう!と思いました。

しかし実際現場に入ってみると、仕事ずっと歩いているので足はパンパンになるし、医療用語は全く分からないし、ただただ先輩の後を付いていくことしか出来なくて、自分は医療の現場の大変さに心が折れそうになりました。

でも、毎日が勉強で、少しずつ仕事の意味が分かってきたり、自分にできることが少しずつ増えてきて、仕事にやりがいを感じるようになってきました。患者さんや、先輩方に「ありがとう」と言ってもらえると、「自分も誰かの役に立てているんだ」と思えて、本当に嬉しかったし、「もっと頑張ろう」と改めて思いました。

現場でばりばり働く看護師さんを見て、すごくかっこいいなと思いました。目標にしたと思う素敵な看護師さんたち、先輩方に出会い、働く姿を見ていると、「私も早く看護師になりたい」という気持ちが日に日に高まります。「いいな」と思うところはどんどん真似して吸収し、憧れの看護師さんに少しでも近づけるように日々努力しようと思います。

今は本当に分からないことだらけでたくさん迷惑をかけてしまうと思いますが、早くチームの一員として力になれるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

以上

## 部署報告①

### 「新人看護職員実地研修を受講して」

クリニック 昂 厚地 絵里子

医療の高度化、看護基礎教育の問題、看護師不足が指摘される中、厚生労働省に「新人看護職員研修に関する検討会」を設置し、新人看護職員研修ガイドラインが作成されました。看護は、人の生涯にわたるヘルスプロモーションとして重要な社会的機能のひとつです。その職業人としての第一歩を踏み出した新人看護職員が臨床実践能力を確実なもの

するとともに、このガイドラインは、新人看護職員の到達目標として1年以内に経験し習得を目指す項目とその到達の目安が示されています。

現在は、まだ努力義務の段階ですが、今後義務化に移行する前に私たちもしっかり学習して自分たちの病院にあった教育システムを模索していかなくてはなりません。それには、国も責務として助成金などの支援を行っているため、看護部だけでなく病院全体も関心をもたなくてはなりません。

実地指導者に求められる能力として、新人看護師に①教育的に関われる能力②適切な関係を築ける能力③状況を把握し、一緒に問題を解決する能力④個に合わせたプログラムを立案できる能力⑤臨床実践能力を評価する能力が必要となります。リアルタイムで評価し、客観的に新人看護師をみていくという術を構築していかなければならないのです。「私の背中をみて学びなさい」という教育方法では、もう古く、個々の世代にあった教育方法を私たちは求められています。

### 大村はま <灯し続けることば>

大村はま氏は、「これから教師になる若い人が、自分には何もできないけど、教育への愛がある、真心がある、これでやっていくんだとよく言います。そこらへんは不安です。熱心と愛情、それだけでやれることは、教育の世界にはない、方法と技術が重要である」と述べています。これは、看護教育のなかでも同じだと思います。

私たちが教育をしていかなければならない新人看護師は成人学習者です。しかし、新人看護師は学生生活から社会生活に突然入り、いわば、狭間の状況です。その新人看護

師に、受け身ではなく、学ぶことについてその計画・実施をさせ、経験から学びを関連づけ、自分たちの職業に直接重要と思われるテーマに興味をもたせる、そして、学習内容中心型ではなく、課題中心型に変えていかなければならないのです。

コルブの経験学習に、経験⇒リフレクション⇒概念化⇒実験のサイクルモデルがあります。具体的な経験をし、その経験を振り返る、そして自分なりの理論(マイセオリー)をつくり、リフレクションから教訓を得て、新たな状況にマイセオリーを適用していく。失敗してもいい、経験こそが成長に繋がるのです。そこで、実地指導者は、新人看護師が責任をとれるくらいの課題を提供してあげなくてはいいのです。

また、実地指導者は新人看護師の評価も行わなければなりません。評価には、診断的評価(学習指導を行うまえに実施し、学習者の能力を評価する、プレテスト)、形成的評価(学習目標に応じた成果が得られているか把握する、小テスト)、総括的評価(一定の教育が終了した際に学習活動全体として把握する、期末テスト)があります。教育し評価する。この結果が新人看護師の能力だけでなく、指導者の教育法や教育観をみつめなおすきっかけでもあるのです。

今回、5日間研修を受講しました。30以上の施設から新人教育に関わっている看護師が集まり、いろいろな施設の現状や環境など情報交換し、5年以上新人看護師が入社していない施設、教育マニュアルがなく統一した指導ができない施設、様々な施設がありました。

10年以上新人教育に携わり、毎年、新人看護師が入社し、指導することが当たり前と

思っていました。新人看護師が入社し、指導ができる環境にむしろ感謝をしなくてはならないと感じました。

教育を通じて、自分自身も知識・態度を共に向上できるよう努力していきたいと思えます。

以上

## 部署報告②

### 「看護覚え書き」を読み返して

第3透析室：東・玉城・宇佐美・栗本

#### 1 はじめに

現在ウクライナの政情不安が毎日ニュースで流れ、「クリミヤ」という言葉をよく耳にする。「クリミヤ」と言えば、看護師ならナイチンゲールを思い浮かべる人も多いだろう。クリミヤ戦争の2年間、看護婦として従軍した近代看護の母であり看護の原点である。

今回、私たちは久しぶりにその著書の一つである「看護覚え書き」の一小節「小管理」を読み合わせた。そこから、現状に活かせる事はないかと考えた。

#### 2 「小管理」要約

「あなたがそこにいるとき自分がすることを、あなたがそこにはいないときにも行われるよう管理する方法を知っている事。それが小管理である。小管理が欠けていれば、どんなに良い看護をたくさんしたとしても、その結果は台無しになったり、逆効果になったりしてしまう。」<sup>1)</sup>

### 3 結果

- ・「自分が不在の時にそこで何が行われるか」と自問しないがために起こる問題
- ・「責任をもっている」という事の意味を理解している人は、責任をどのように遂行するかを知っている人という意味

チャートやカルテ、NCP は重要な伝達ソースである。経験、知識の差はあっても、確実な伝達が出来ていれば、患者に必要な看護援助が、自分が不在でも提供出来る。しかし、責任感がなければそれらを活用出来ず、また自分が今日 1 日だけの仕事をこなす事しかせず、伝達もされない。

実際に聞いた透析患者の言葉で、「毎回自分でやってと言わないと、やってくれない」と言われたことがある。内容は、透析終了時の自己止血後に貼るサビオを開封しづらいので開けておいて欲しいという些細な援助である。しかし、この些細な事を出来るか出来ないかが円滑な人間関係に繋がるポイントではないだろうか。信頼を保つ為にも、「聞いていない」「知らなかった」で済まさない様にした

昨年未より、透析室では部署を問わずメンバーとして看護にあたっている。各々の透析室でもシフト別、入院側、外来側の担当があり、毎日仕事をしても同じ一人の担当として直接関わる機会は少なくなっている。だからこそ、「小管理」の重要性を感じる。

また、その小管理が現在出来ていないために起きている問題がある事は確かである。その為、透析室のリーダーミーティングでも話し合いがもたれ、改善策を模索している所だ。

・自分の健康も顧みず他の仕事を投げ打って看護に打ち込んだとしてもただ一つの小さな管理が抜けているならば、その半分も打ち込んではいないが、自分自身を拡大する技術を持っている別の看護師と比べて、その半分も十分な看護を行えてはいない。

ボランティア精神があり、遅くまで残ってはいるが、知識・技術を持っていない看護師より、知識・技術を活かし、時間配分を考えて仕事をする看護師の方が十分な看護を提供出来ていると捉えた。また、管理の中に、自己の健康管理という意味も含まれていると考える。

「自分自身を拡大する技術」とは、自己学習や研修・学会への積極的な参加で自己研鑽をする事や情報交換（カンファレンス・他部署との交流など）も含まれるだろうか。個性や相性もあり、持っている情報に違いがある。その情報を一人占めしない事が、患者に合った最適な看護の提供に繋がると期待出来る。

### 4 考察

一人の患者に対し、沢山のスタッフが関わるからこそ、情報の共有が重要であり、その情報を活かせる知識と技術を持つ努力をする必要がある。それが看護師として、責任ある行動と言えるのではないだろうか。

### 5 まとめ

今回は「小管理」の項のみで、意見を出し合ったが、たった 4 名でも考える所、感じる所に相違があり、勿論共感し合える点もありと興味深かった。日々の仕事に疑問や不満を抱え迷っている時に、看護の原点に還るのも悪くない。また、他の項や、一冊全ての読み合わせをしてみたいという意見もあり、機会

を持てたらと思っている。是非皆様にも読み返して、意見など寄せて頂ければ嬉しい限りである。

以上

<引用・参考文献>

「看護覚え書き」フローレンス・ナイチンゲール 訳:湯植ます 等,1998, 現代社出版 (P.53~p.69)



<前号「看護部だより」の感想>

訪問看護ステーション 所長 寺本祐子

看護学生1年生の「入社して」を読んで数十年前の自分を思い出し、新鮮な気持ちで共感することができました。看護師になろうと思った動機は人それぞれですが、誰もが経験する看護学校1年生、現場見習い1年生。様々な不安と期待を胸にしなが、憧れの白衣を着た瞬間の気持ち、喜びを忘れないでほしいですね。現実、楽しく仕事ができるときばかりではなく、むしろ厳しいときや辛いときの方が多いかもしれません。でもそのことにはちゃんとした大切な意味があると思います。そこを乗り越えてこそ、卒業の喜び、独立の喜びがあり、新たな目標や夢が芽生え、更には自信につながり、飛躍することができるでしょう。迷った時は、「〇〇さんのような看護師になりたい」と、身近な目標を見つけると良いと思います。自分で選んだ道、決してくじけることなく、辛いときこそ、白衣を着たときの喜びを思い出しながら夢を掴みとってほしいです。それまでの苦労はいつの日かの財産に変わりますよ。陰ながら応援しています。

連載:がん闘病記 ④

## えっ!ステージIV?

手術室 打田潤子



(前号では、「つづく。次号は3つめの夢が出てきます。」となっていました、これは編集部の早とちりでした。今号は「術後は日にち葉」から再スタートです)

### 16 術後は日にち葉

術後4日目、日曜日とあって昼ごろから次々と面会があった。この日は昼食から食事開始となる予定であった。しかし、待ちに待った食事を前に、何故か嘔気がした。ナースコールを押したが間に合わず、オーバーテーブル上の膿盆を取りたくても術創が痛くて取れない。やって来た看護師に膿盆を指差し取ってもらった。胆汁様ものを吐いてしまいすっきりしたが、とても食事を食べる気になれず、2時間程取っておいたがタイムアウトで膳は下げられた。

翌日、車椅子でレントゲン室につれられて行った。髪の毛はぼさぼさ、寝巻きの足元は閉じたが、車椅子に座っているだけなのにえらく格好なんか気にしていられなかった。10分もない待ち時間が長く感じられた。

腹部単純正側を撮り、結果はイレウスではないと分かり、昼から食事開始となった。この5日目に大部屋への移動となった。なによりフットポンプが取れたことが嬉しかった。

術後初めての食事は「お混じり」という米粒が少し入った重湯に近い物だが美味しかった。その後、嘔気嘔吐はなく順調に食事は進んだ。私と同室の方はイレウスでまだ絶食中だった。1日違うだけで体調は良くなってくることが実感できた。そうすると今度は髪の毛



毛の臭いが気になってきた。毎日面会に来てくれる長男の嫁に、「明日、シャンプーだけでも出来ないかなあ」と言うと、「じゃあ、帰りに聞いてきます。」とナースセンターへ行き、「明日、大丈夫だそうです。」と返事をくれた。

6日目、今日のシャワーは介助でと言われた。「まだ、硬膜外カテーテルもバルンカテーテルも点滴も入っているけど入れるんですか。」と聞くと「はい大丈夫ですよ。」と言われた。午後になって、白色のごついエプロンに手袋と長靴を履いて現れた看護師が「さあ行きましょうか。」とやって来た。点滴台ごと浴室に入り、身体を洗い、シャンプーしてもらおう。ドライヤーを借り乾かしていると頭から白い粉がパラパラと舞い落ちる。「わあ、すごい。しばらく洗わないと、こうなるんだ。」と思いながらドライヤーを使う。この日、硬膜外カテーテルが抜けた。

7日目にはバルンカテーテルが取れたが、点滴がまだ入っていたため、30分おきにトイレ通いが続き、朝の5時頃まで眠れなかった。バルンカテーテルと言えば、ここのウロバックには中の尿が見えないようにスカートをはかせてあった。昼過ぎに長女がやって来た。

紙袋をオーバーテーブルの上の置き、起きないと中が見えないよと言う。中身が見たいので術創が痛いのをこらえベッドに座る。「おっ、ポシェットだ。」歩く時、手で術創のところを押さえながらとぼとぼ歩くので、財布と携帯が入る革製のポシェットを作ってきてくれた。重いと肩がこるので軽い皮で作ってある。早速、散歩に連れ出された。下の売店までだが、トイレの往復など病棟内しか歩かなかったので、結構疲れた。この日からシャワーは一人で入れ、一人枠の30分ぎりぎりかかった。入浴はナースセンターにある白板の空いている枠に自分の希望を書き入れる。勢いのいいシャワーで全身を洗うと気持ちがすっきりする。

8日目には、最後の点滴が取れ、食事も排泄も問題なく順調にいていたので、主治医にいつ頃退院か尋ねると、土曜か日曜日どちらでもと言われ、術後10日目の16日土曜日に決めた。入院中は11月にしては寒い日が続いていたが、退院の日は気持ちの良い小春日和だった。退院の朝、次男から「おはよう、退院時にこけないように。」とメールが入った。入院時から10kgほど体重が落ちたので、全身の筋肉量は低下し、ふわふわした足取りで車に向かった。長男の嫁の運転で、ゴールデンボンバーの曲を聴きながら、2週間ぶりの自宅にもどった。この日、久しぶりに車の運転をしたが、免許を取って以来の安全運転になった。驚いたのは、筋力低下で、字が書きにくくなった事だ。何でも使わないとどんどん機能低下していく事を実感した。

退院後、2週間の自宅療養を取ったが、半日は職場に出かけ、半日はソファに横になっている毎日だった。手術前と比べると、階段で3階まで上がれるようになっただけ、体調は良くなった。こうして術後経過は非常に順調に進んでいった。

(以下次号につづく)

